

日本旅行医学会からの提言

“エコノミークラス症候群”から “ロングフライト血栓症”へ！

日本旅行医学会は、このほど、いわゆる“エコノミークラス症候群”と呼ばれる長時間の航空機での旅行後に発生する深部静脈血栓症(Deep Venous Thrombosis ; DVT)と肺塞栓症(Pulmonary Embolism ; PE)を“ロングフライト血栓症”(Long Flight Thrombosis)と改称することを、去る6月26日定例理事会にて検討し、全員一致にて可決し、ここに提言致します。

日本旅行医学会は、2002年3月に正式設立した学術団体ですが、旅にかかわるケガ・病気の予防の正しい知識を広く一般に伝えることも学会の使命のひとつととらえて広く活動をしております。

シドニーオリンピック観戦帰りの若いイギリス人女性の死亡例や、最近ではJリーガー高原選手の報道などで広く関心を集めたこの“エコノミークラス症候群”は、その名称が様々な誤解を生み、予備知識のない人々にとっては解説を聞いて初めて分かるという分かりにくい言葉となっています。

まず、その名称から狭いエコノミークラス席が危険で、ビジネス、ファーストクラスは安全であるかのような誤解を与えます。しかし、この病気は、ファーストクラスよりも幅広く、もっと平らな病院のベッドで、主に下肢の骨折の手術後に“長時間動かないこと”によって多発している病気です。そして、Jリーガー高原選手もビジネスクラスに搭乗していました。

一方、正確さを期すため深部静脈血栓症＋肺塞栓症(Deep Venous Thrombosis with Pulmonary Embolism)とすると長い単語となり、一般にはなじみにくく口頭で用いるのに

も不適当と思われます。そこで、当学会では討議を経て、“ロングフライト血栓症”的呼称を提言するに至りました。海外の旅行医学文献にフライト血栓症(Flight Thrombosis)という呼称があり、それを踏まえた提言ですが、単に“フライト血栓症”とすると国内便などでも飛行機に乗ると起こる病気と誤解されることを懸念して“ロングフライト血栓症”とし、一般に「6時間以上の長時間フライトに伴う病気」という意味を付け加えました。

今後、当学会では、“ロングフライト血栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)”の併記を当面の期間使用し、一般に普及した時点で、“ロングフライト血栓症”と単独で使用致します。

なお、旅行者血栓症(Traveler's Thrombosis)という言葉も、長距離バスでの血栓症の報告もあったという極めて稀な例を根拠とした提言もあり一部で使用されておりますが、意味が漠然と広がり過ぎて、長時間フライトに注意すべきという日本人旅行者へのメッセージ性が極めて希薄となり、“エコノミークラス症候群”的代称としては不適当と思われます。

この“ロングフライト血栓症”という適切で分かりやすい言葉への改称が、ひとりでも多くの旅行者に正しいメッセージを伝え、命にもかかわる本疾患の予防に貢献することを切に望みます。

2002年7月3日

日本旅行医学会
理事長
山田 兼雄